



# HPV ワクチンについて

おがさまきレディースクリニック  
院長 小笠 麻紀

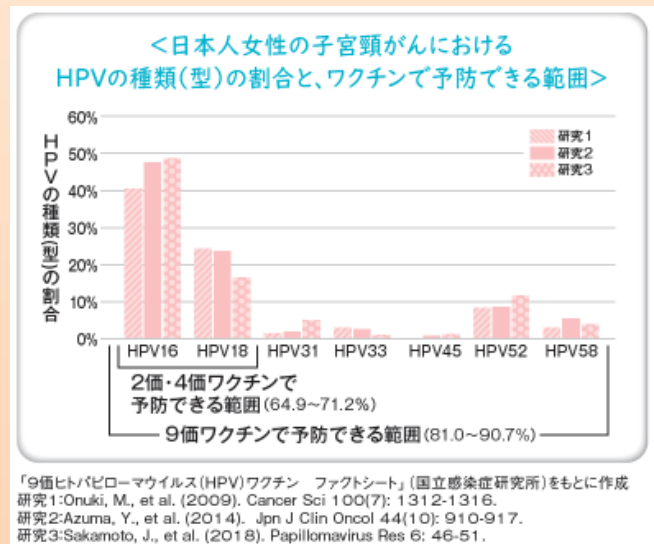
子宮頸癌という病気をご存じでしょうか？

子宮頸癌は、子宮の出口に近い部分にできる癌です。日本では毎年約 1.1 万人が罹患し、約 3000 人が亡くなっています。また、発症するのは若い女性が多く、30 歳代までに治療によって子宮を失う人も毎年 1000 人程度います。その原因は HPV (ヒトパピローウイルス) ということがわかっており、ワクチンによって HPV の感染を防ぐことで、子宮頸癌を予防できるとされています。

HPV には、150 種類以上の型があり、このうち、子宮頸癌に関係するのは 13 種類です。子宮頸癌の 7 割が、16 型か 18 型によるもので、ほか 5 つの型を合わせた 7 種類はワクチンの効果が証明されています。7 割程度の女性が、一生に一度は感染するといわれている HPV は、ごくありふれたウイルスであり、多くの人は感染しても自然に消えてしまいますが、感染が持続することで子宮頸癌、肛門癌など、悪性疾患を発症してしまうウイルスでもあります。

HPV ワクチンは、2006 年に欧米で生まれ、使われ始めました。日本では、2009 年 10 月に承認され、その後、主に女子中学生に接種されていましたが、一部の反対意見によって、2013 年 6 月から積極的な接種の推奨が控えられていました。しかし、安全性に問題なく、効果が非常に高いと証明され、2022 年 4 月から小学 6 年生から高校 1 年生までの女子に定期接種を行う方針となりました。さらに、2023 年 4 月からは、公費での接種の機会を逃した 1997~2006 年度生まれの女性に対しても、2023~2024 年度の 2 年間に限り、公費接種が可能となっています。また、2023 年度から、欧米では主流となっている 9 価ワクチンもうてるようになりました。(私費で受けた場合は、3 回で約 10 万円です)

麻疹、破傷風、新型コロナなど、感染症に対するワクチンは、色々ありますが、癌の予防を目的とするワクチンは他にありません。しかも、ほとんど副反応はなく、効果は 20 年程度続くとされ、うたない選択はないと思います。世界保健機関 (WHO) でも接種を推奨しており、2022 年 12 月時点では、120 か国以上で公的な予防接種が行われています。まだうっていない 10 代女性の皆さん、是非、HPV ワクチンを接種しましょう。



厚生労働省ホームページより引用

(<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/index.html>)